● 熊本城顕彰会とは

熊本城は西南戦争以来、焼け残った宇土櫓を始め、諸櫓は久しく風雨にさらされ荒れ果てていました。そこで市民、県民の間から熊本城保存の運動が起り「熊本城阯保存会」が組織されました。そして宇土櫓をはじめ諸櫓の改修が進められ昭和２年11月25日に落成しました。同保存会もこの年、会長を熊本県知事佐竹義文氏、副会長を熊本市長辛島知己氏とした財団法人組織となり、昭和17年４月に「熊本城保存会」、及び昭和26年12月10日には「熊本城顕彰会」と改称し現在に至っています。

熊本城を顕彰することによって、郷土熊本の歴史や文化の保護発展に寄与することを目的にさまざまな事業を行っています。この長年にわたる活動が高く評価され、平成26年11月に熊本県文化財功労者として、また、令和３年１月には文部科学大臣から令和２年度地域文化功労者として表彰されています。

《熊本城顕彰の沿革》

明治20年	2月	熊本城史談話会が組織される
大正14年	10月	熊本城保存の議が起こる
大正15年	1月	熊本城阯保存会が組織される
昭和 2年	1月	宇土櫓を除く旧来の諸櫓改修（陸軍（当時）にて）
	6月	宇土櫓改修起工
	7月	財団法人認可、財団法人熊本城阯保存会と改称（組織設立）
	11月	宇土櫓改修落成
昭和 8年	1月	宇土櫓及び旧来の諸櫓、長塀等国宝指定
	2月	熊本城一帯史蹟指定
昭和11年	11月	本会は熊本城保存に関し、その功績顕著により文部大臣より表彰
昭和15年	2月	月刊雑誌『熊本城』創刊
昭和17年	4月	財団法人熊本城保存会と改称
昭和19年	2月	月刊雑誌『熊本城』は戦時情勢の必要から第５巻第２号をもって休刊（発行数49号）
昭和26月	7月	熊本城管理権を熊本市に移管する
	12月	財団法人熊本城顕彰会と改称
平成 3年	2月	会誌『熊本城』を復刊
平成26年	11月	熊本県文化財功労者として表彰
令和 3年	1月	文部科学大臣から令和２年度地域文化功労者として表彰

会員を募集しています

熊本城顕彰会では、現在、個人及び法人会員合わせ約600口加入されています。

会員には、会誌『熊本城』の送付（年４回）、当顕彰会による各種事業のご案内通知を差し上げます。

当顕彰会では随時、会員を募集しています。個人及び法人等の会員年会費は、2,000円です。

加入ご希望の方はお気軽に下記顕彰会までご連絡ください。

● 熊本城顕彰会アクセス

アクセス

市電Ｂ系統「新町」下車徒歩３分

（JR熊本駅からは「辛島町」で市電Ｂ系統に取り換え）

一般財団法人 熊本城顕彰会

〒860-0004

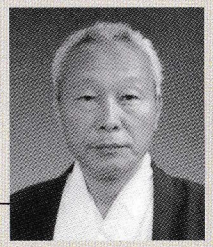
熊本市中央区新町２丁目４番27号

熊本市健康センター新町分室２階

Tel・Fax/ 096-352-2975

一般財団法人
熊本城顕彰会

会長挨拶



熊本城顕彰会会長
湯田榮弘（ゆた しげひろ）

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

『熊本城顕彰会』の歴史は古く、今から95年ほど前に遡ります。当時、熊本城は、西南戦争以来、宇土櫓をはじめとした多くの櫓などが荒廃し、史跡としての価値を大きく損ねる状況となっていました。そこでこのことを受け、我が熊本の大切なシンボルである熊本城の保存が大きな問題となり、当時の市民、県民が集まり、大正15年に『熊本城阯保存会』が組織されました。そして、その後、熊本城阯保存会は、宇土櫓が改修された昭和２年に財団法人組織となり、昭和26年12月には『熊本城顕彰会』と改称され、現在に至るまで熊本城の顕彰はもちろん、郷土熊本の歴史、文化の保護・発展のため様々な事業に取り組んで参りました。

このような長年にわたる活動が高く評価され、本顕彰会は、平成26年11月に「熊本県文化財功労者」として、また令和３年１月には文部科学大臣から「令和２年度地域文化功労者」として表彰されております。

皆様ご承知の通り熊本城は、平成28年４月の熊本地震により甚大な被害を受けました。その時の悲惨な熊本城の姿を思い出しますと、その姿は忍びなく、まるで私たちの心の支えが一瞬にして崩れ去ったかのようでありました。しかしその後、県内外の多くの皆様のご理解の中、熊本市が中心となり復旧・復興に取り組まれ、現在は熊本城天守閣の復旧整備工事も完了し、大天守の特別公開も始まり、熊本地震前と変わらぬ威容を誇っております。しかしながら、城内の被災した櫓や石垣等の多くはまだまだ復旧の途上であり、その全ての復旧が終了するにはまだ多大な時間が必要であり、一日も早い復旧を心から願っているところです。

本顕彰会におきましては、今後も熊本城の早期の復旧・復興を積極的に支援してまいりますとともに、貴重な歴史文化遺産として後世へ残すべく、顕彰し、保存に努めて参る所存です。

どうか、これからも皆様のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

●主な事業

1．会誌『熊本城』の発行

在熊の郷土史家の方々の熊本城や城下町、細川藩に関わる真摯な研究論文の掲載を中心に、年４回（２月、５月、８月、11月）発行しています。

熊本城の知られざる部分や歴史的役割、あるいはこれにまつわる逸話など、広く熊本の歴史や人物を掘り起こし、多くの方々に紹介しています。

会誌『熊本城』は、昭和15年２月11日に月刊雑誌として第１号が刊行されましたが、戦時中のこともあり昭和19年休刊のやむなきに至りました。その後、時代を経て多くの方々から復刊の強いご要望を受け、平成３年２月22日に復刊第１号が刊行され、これまで30年以上にわたり発行を続けています。

会誌『熊本城』は、購読会員に送付するほか、県、市の行政機関や図書館、公民館、報道機関等にも贈呈しています。

2．熊本城めぐりの開催

熊本市熊本城調査研究センターの協力を得て、熊本城の調査研究にかかわる専門職員の方々を講師に、熊本城域を徒歩で回りながら歴史研究を体験します。特に熊本地震後は熊本城の被害状況や復興状況についても学びます。

《主な年間予定》

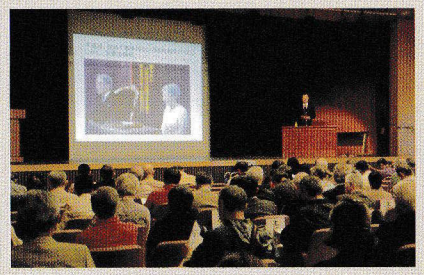
5月　初夏の熊本城めぐり
9月　初秋熊本城めぐり
10月　秋の熊本城めぐり
11月　晩秋熊本城めぐり
3月　春の熊本城めぐり

＊１回の定員は30名（非常に好評で毎回抽選になっています。）

3．「西南の役」記念会の開催

熊本城もその舞台になった「西南の役」の犠牲者を弔い、日本最後の内戦の歴史を後世に正しく伝えるため、毎年４月に郷土史家等による記念講演会などを開催しています。

「西南の役」における熊本城の攻防戦は、明治10年２月22日に始まり、同年４月14日午後までの50数日間の大激戦であったわけですが、当時参戦した谷干城（たに　たてき）、児玉源太郎、乃木希典（のぎ　まれすけ）などの高官が、この大激戦に思いをはせて東京で催したのが、この記念会の始まりと言われています。



《最近の「西南の役」記念会における記念講演会》

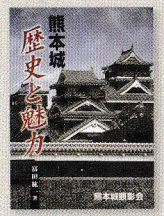
平成29年度　「今、なぜ、清正公さまなのか」
　講演者　湯田榮弘氏（加藤神社名誉宮司）
平成30年度　「西南戦争戦跡出土品が語る近代化」
　講演者　美濃口雅朗氏
　（熊本市文化振興課文化財保護主幹）
令和元年度　「加藤清正と忠廣－肥後加藤家改易の研究」
　講演者　福田正秀氏（歴史研究家）

＊令和２年度、３年度及び４年度は、コロナ感染症の影響により開催を中止しました。

4．図書の刊行

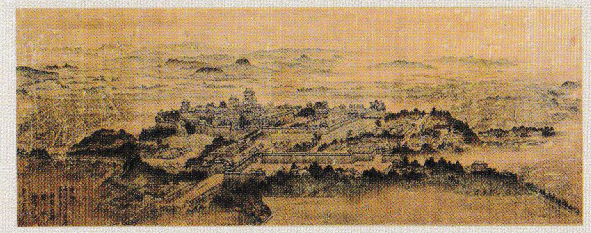
熊本城や熊本城に関連した事変事象を調査研究した成果を冊子として発行し、多くの方々の歴史認識を深めます。

『熊本城　歴史と魅力』　富田紘一著　1,000 円（税別）
『西南戦争古写真アルバム』富田紘一著　500 円（税別）



5．熊本城顕彰会所蔵資料の活用と展示公開

熊本城顕彰会は、熊本城や西南戦争に関する貴重な歴史資料933点を所蔵しています。この貴重な資料が地域文化の振興に資することを目的に、熊本市熊本博物館に貸付けを行っており、同博物館において展示公開されています。



熊本城北面大観図（杉谷雪樵作）